

関係各位

2017年3月6日
津軽海峡フェリー株式会社

2017年3月11日 津軽海峡ロード「青森～函館」航路へ就航！

新造船「ブルーハピネス」船内見学会を開催！

津軽海峡フェリー株式会社（本社：北海道函館市・代表取締役社長 いしまる しゅうぞう 石丸 周象、以下 津軽海峡フェリー）は、2017年3月11日（土）より津軽海峡ロード「青森～函館」航路（以下、同航路※1）に就航する新造船「ブルーハピネス」の船内一般見学会を2017年3月9日（木）青森港にて下記の通り開催いたします。

船内一般見学会においては先着で数量限定非売品のオリジナルグッズをプレゼントいたします。

「ブルーマーメイド」・「ブルードルフィン」の姉妹船として就航するカジュアルクルーズフェリー「ブルーハピネス」が、歴史ある津軽海峡航路の発展に寄与し、末永く愛されるよう函館・青森をはじめ近郊エリアの皆様方に是非とも本船をご覧頂きたく、多数のご来場を心よりお待ち申し上げます。

※1：津軽海峡ロード「青森～函館」航路とは、弊社が2014年にネーミングした当航路の愛称です。

記

■新造船「ブルーハピネス」船内見学会について

【お披露目会】

日時：2017年3月9日（木）11：30～12：00

開催場所：「ブルーハピネス」船内 車両甲板

主催：津軽海峡フェリー株式会社

※お披露目会につきましては一般のお客様の
参列はご遠慮頂いております

概要：テープカット 他



【船内一般見学会】

日 時： 2017年3月9日（木）12：30～14：30（14：00 入場締切）

入 場 口：津軽海峡フェリー青森ターミナル のりば1 車輛乗船口前

対 象：どなたでもご見学頂けます

※当日、一般見学者様の受付は特にごさいません。先着順にてご入場頂きます。

※入場の際し混雑時は人数を調整させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。

※車イスでお越しのお客様は車イスのままご覧頂けますが、一部ご覧頂けない施設も
ございます。

入 場：無料

そ の 他：① 数量限定非売品のオリジナルグッズをプレゼント

※お一人様、一個限り。プレゼントはグッズが無くなり次第、終了いたします。

② 駐車場につきましては一般公開見学者様用の駐車場をご用意しております

※駐車場スペースには限りがございますので、なるべくお乗り合わせいただくか、
公共交通機関をご利用の上お越しく下さいませ。

③ 函館でのお披露目会、一般見学は行いません。予めご了承下さい。

【新造船「ブルーハピネス」について】

（カッコ内は本船と入れ替わりになる「びなす」のスペック）

<スペック>

総トン数：約 8,800 トン（7,198 トン）

全 長：約 144m（136.6m）

全 幅：23m（21m）

定 員：583 名（590 名）

積載台数：トラック 71 台または乗用車 230 台
（トラック 65 台または乗用車 200 台）

速 力：約 20 ノット（20 ノット）

備 考：災害時に活躍できる船舶として医療対応設備 等、
救助活動に寄与できる設備を搭載しております。

災害時多目的船としての詳細な機能は、別紙御参照のほどお願いいたします。



2016年9月28日進水式（内海造船株式会社瀬戸田工場）

以上

■一般のお客様お問合せ先：津軽海峡フェリー総務チーム 0138-62-3550（9:00～18:00）

■津軽海峡フェリーWEB

PC版 <http://www.tsugarukaikyo.co.jp>

スマートフォン版はこちらから

<http://www.tsugarukaikyo.co.jp/sp>



災害時多目的船について

【1】概略

災害の際の救援物資の搬入、簡易な医療対応、給電・清水供給などを搭載した船舶を指します。

【2】津軽海峡フェリーの取り組み

当社は3隻(右図)の災害時多目的船を青函航路に導入しており、災害の際に御活用頂けるよう、船舶の設備を整えております。
 詳細な設備仕様については【3】の通りですが、例えば、通常の航海速度が20ノットであることに対し、23ノットまで上げることができるエンジンを搭載しております。これは災害の際、救援に向かっても、本州～北海道間の物流量を確保する、通常の運航体制を保持するために設備しているものです。



左から「ブルーハビネス」「ブルーマーメイド」「ブルードルフィン」

【3】災害時対応仕様

設備の詳細について説明いたします。

項目	概要	写真 ※利用想定はイメージです
1. 船首右舷シヨアランプドア	■可動橋設備がない一般岸壁に接岸可能	2.エレベーター
2. エレベーター	■ストレッチャー対応型で、災害時に傷病者を客室甲板に搬送可能 ※ストレッチャー積載時に介護者4名利用可能 ※1900×600型ストレッチャー対応	
3. エスカレーター	■災害時に多人数を車輛甲板から遊歩甲板に搬送可能	7.ドクタールーム
4. ヘリコプター ピックアップエリア	■ヘリコプターのホバリングによる羅針儀甲板からの傷病者ピックアップが可能	
5. 雑用清水供給	■災害時に本船の清水タンクから車輛甲板の給水栓により陸側又はタンクローリに雑用清水を供給可能 ※清水タンク容量: 約285㎡	8.スタンダード客室
6. 電力供給	■災害発生時、本船に搭載された大型発電機を活用し、車両への電力供給が可能 ①電気自動車用(AC220V,1φ,20A):5台 ②冷凍コンテナ用(AC440V,3φ,60Hz,30A):2台 ③保冷車用(AC220V,3φ,60Hz,60A):2連式×20台	
7. ドクタールーム	■傷病者診察に利用できる専用施設を完備 災害発生時に、救護所としての活用ができ、治療が必要な方への迅速な対応が可能	
8. スタンダード客室	■災害時ストレッチャー搬入できるように各座席入口部にスロープを設置	
9. 衛生設備	■災害時発生時、多人数での利用が可能 ①トイレ設備(通常仕様より多く設置、大便器で30%増) ②シャワー室(紳士用×8箇所、婦人用×4箇所) ③多目的トイレ1室にオストメイトを設置	
10. バリアフリー通路	■車輛甲板から客室までの通路はバリアフリー対応	